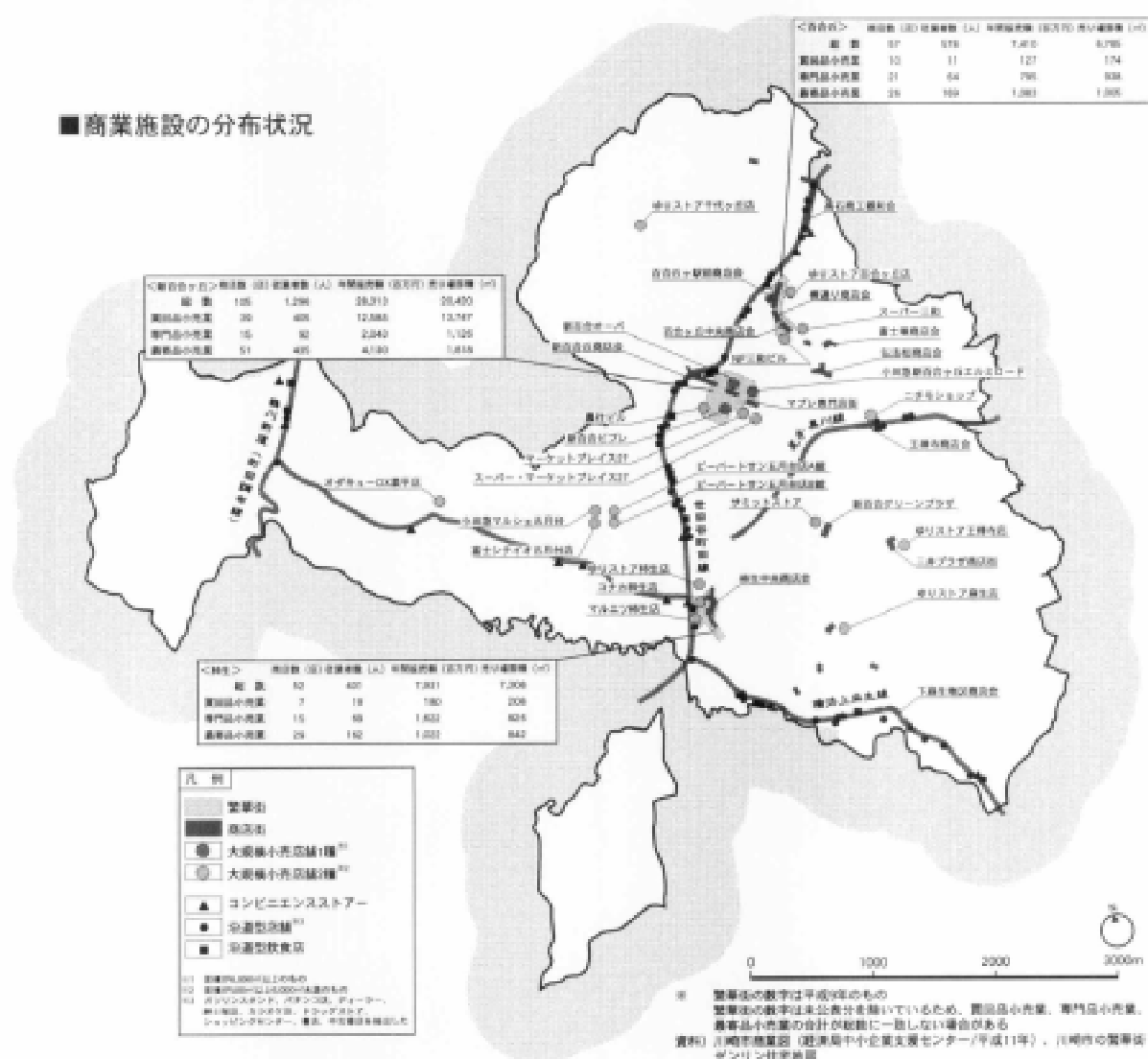


## 2) 商業施設

- ・麻生区の商業施設は、新百合ヶ丘駅、百合ヶ丘駅、柿生駅周辺に集積しているとともに、世田谷町田線と横浜上麻生線沿道にその多くが立地しています。
- ・住宅市街地内の商業施設の分布状況を見ると、大規模な面的開発が行われた住宅市街地において、近隣住区論<sup>※</sup>に基づいて、開発地のセンター地区に商業施設を集積させているところがみられますが、新百合ヶ丘等の駅周辺への商業集積や幹線道路沿道へのロードサイド型量販店の進出に伴い、最近では、シャッターが下りている店舗が少なくありません。その他の住宅市街地においては、用途地域による立地規制や採算性が低い等の理由により、商業施設が立地していないところが多くなっています。

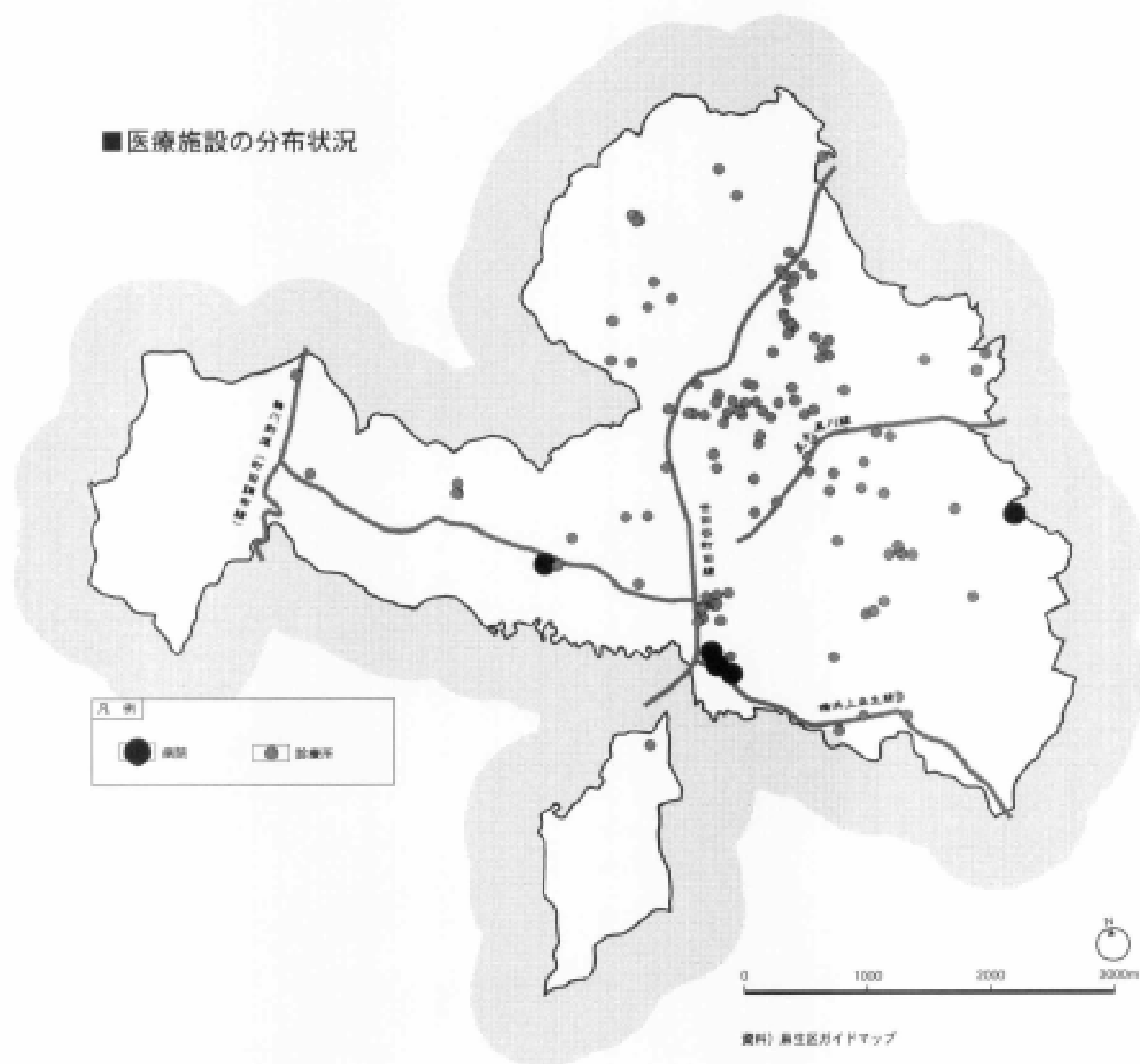
■商業施設の分布状況



※…近隣住区論：アメリカのC.A.ベリーによって提案された住区計画の理論で、人口5,000～6,000人規模（小学校区程度）を1単位として、小学校等のコミュニティセンターのまわりに住宅を配置することにより、その単位の中で日常の生活行動が完結する「近隣住区」を構成し、これらを積み上げることによって都市を構成するという考え方をいいます。

### 3) 医療施設

- ・麻生区の医療施設は、新百合ヶ丘駅や百合ヶ丘駅、柿生駅等の鉄道駅周辺を中心に、住宅市街地内にも立地しています。
- ・病院としては、麻生病院、柿生病院、麻生リハビリ総合病院、たま日吉台病院、川崎田園都市病院があります。
- ・また、診療所は、ほぼ区全域に立地しています。



### 4) 福祉施設

- ・麻生区の福祉施設は、区内全域に立地しており、18歳以下の児童・生徒等が地域で「遊び」を中心に活動する拠点である子ども文化センター<sup>※</sup>が10ヶ所、地域の福祉活動の拠点である老人いこいの家<sup>※</sup>が6ヶ所に設置されています。

※…子ども文化センター、老人いこいの家：ともに、おおむね中学校区を原単位として、市内全域に設置されています。

## ■福祉施設の分布状況



## 5) 公共交通網

- ・ 麻生区には、南北方向に区を貫くように小田急小田原線が、新百合ヶ丘駅から分岐して多摩ニュータウン方向へ小田急多摩線が走っています。
- ・ 路線バス網については、鉄道駅を起点として住宅市街地内を縦横に走っていますが、運行本数が少ない路線があったり、交通渋滞等の影響を受けてバスの定時性が確保されていないなどの問題点が指摘されています。

## ■公共交通網と交通不便地域の分布

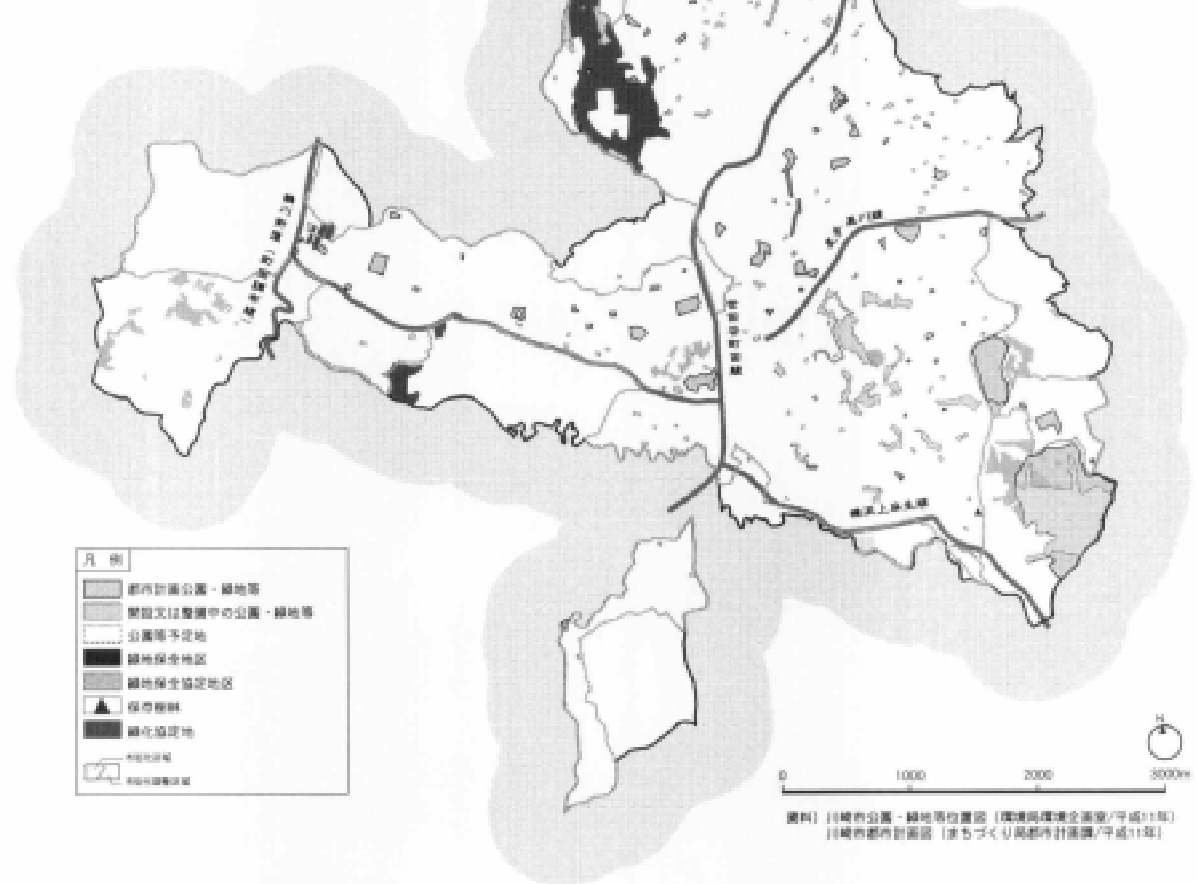


## 6) 緑地や緑化施策

- ・麻生区は、面的開発で整備された住宅市街地が広く分布しているため、公園面積は90.2haにのぼり、市民一人あたりの公園面積は6.34㎡/人と川崎市の中では高水準な状況にあります（市民一人あたりの公園面積の川崎市平均は4.54㎡/人です）。
- ・緑地保全地区※は、多摩緑地保全地区（3.6ha）と細山大久保地区（0.5ha）の2ヶ所が指定されています。
- ・また、向原地区等において、緑化協定が結ばれているのをはじめ、緑地保全協定地が区内全域に分布するなど、住民の緑に関する意識が高い区といえます。

※…緑地保全地区：風致又は景観が優れている等の都市の一定の緑地について、都市計画に定め、建築行為等を制限することにより、都市の緑地の保全及び緑化の推進を図る地区をいいます（根拠：都市緑地保全法）。

■緑化施策別緑の状況図



## 7) 防災効果のある施設

- ・防災効果のある施設として、「公園・緑地」「階数3以上の防火建物」「幅員16m以上の道路」を整理すると次のようになります。



■防災効果のある施設の分布図

## ② 課題

- ・住宅市街地を取り巻く現状を踏まえると、次のような課題が浮かび上がってきそうです。

- 今後とも、東京のベッドタウンとしての性格をもったまちであり続けることが予想されるため、通勤・通学の負担を軽減する交通網、勤労者支援施設（駅で各種サービスを受けられる仕組み等）等の整備が必要といえます。
- 新百合ヶ丘等の駅周辺の大規模または高品質な商業施設と、住宅地内の暮らしに密着した近隣商業施設のすみ分けを図ることが必要といえます。
- 診療所は、区内全域に分布していますが、地域による診療科目の偏りがあることが否めないため、それぞれの診療所をネットワーク化するなどの対応が必要といえます。
- 利用しやすい福祉施設になるような運営面での工夫や、アクセス性の向上等が必要といえます。
- 路線バスが交通渋滞の影響を受けにくい道路整備や、コミュニティバスの導入等による身近な区民の足となる公共交通網の整備が必要といえます。
- 緑に関する区民意識の醸成を図り、区民の手による緑と住宅が調和したまちづくりが必要といえます。
- 大地震に伴う同時多発的な大規模火災による被害を最小に食い止めるため、延焼遮断帯の確保等に向けたハード面での整備と、防災に関する区民意識の醸成が必要といえます。